

「私の思う伊仙町」

大島高等学校 一年 松岡 天真



私は高校進学のため、この春初めて徳之島を離れました。今、船で四時間という距離にある隣の島の高校に通いながら、徳之島の雰囲気とあまり変わらず、楽しく高校生活を送れています。でも毎日を過ごしていく中で、少しずつ徳之島の伊仙町の良さが分かった気がしました。

一つ目は人です。奄美の人も、伊仙町の人も心優しい人が多いけど、伊仙町の人の方がより温厚で明るく、元気な人が多いのではないかと思えます。徳之島には闘牛という昔から続く

伝統行事があり、自分で大切に育てた牛を闘わせるという、徳之島ならではの楽しみがあります。そのせいか、伊仙町の人も明るく元気で、情熱的な人が多いと思います。これは伊仙町の一つのいいところだと思います。また、伊仙町の人はお祝い事にとても力を注ぎます。赤ちゃんの生祝い、小学一年生の入学祝い、棟上げの際のお祝いなど、様々なお祝いで各家々を回って、みんなで祝福します。これも他の島々にはあまりない、素晴らしい文化だと思っています。

二つ目は、昔から続いているお店をあまり潰したりせずに、今もなお営業し続けているところ です。奄美を見ると、小さな商店やあまり人気のないお店などを撤去して、そこにダイソーやオシャレなカフェを作ったり、海を埋め立てて大きなホテルやパチンコ屋などを作ったりしています。若い人が喜ぶようなお店を作って人口を増やすのはいい考えとも思いますが、今までであったものを壊していつてしま

うと、奄美にあった良さがなくなってしまうのではないかなと思います。伊仙町も、閉店してしまった商店などはあるけれど、小さな集落にもまだ数多く残っており、そこが伊仙らしい良い所だだと思います。

これらのことから、今後伊仙町に期待することは、このままの人・自然・情景などが何十年も続いていつて欲しいことです。奄美のように海を埋め立て、大きなホテルを作ったり、若い人などに人気のあるお店ばかりを作ったりするのもいいけれど、今のままの、伊仙町ならではの、雰囲気や情景が今後も続いていくことを期待します。そこから改めて生まれ育った伊仙町のことを考えると、将来は必ず帰ってきたいと思っているし、その頃にはもっと人が増えて活性化していつてほしいなと思っています。私も島に帰った時に、少しでもその力になれるような人になりたいと思っています。

「より活気のある私の町」

徳之島高等学校 三年 牧園 優奈



私が未来の伊仙町に期待することは、町も町民も活気のある地域になることです。伊仙町には明るく元気な子ども、そして私たちを優しく見守ってくれるおじいちゃん、おばあちゃんがたくさんいます。自分の子どもだから、自分の孫だからなどは関係なく、地域みんなで子どもを育て、お年寄りを支えるという魅力があります。これは、都会にはない伊仙町の良さです。

そこで、町民が一体となって参加できるイベントを開催することで、より

交流の場が増え、町も町民も活気のある地域になると思います。例えば、老若男女が参加できるマラソン大会があります。コロナウイルスが流行する前は、町

マラソンが終わる頃には、町民同士の関係が広がり、たくさんの笑顔が見られると思います。

民体育祭や町の駅伝大会が開催されていましたが、最終的に順位が決まる競争形式なので、始めから出場する選手が決まっていることが多く、なかなか町民全員が参加することができません。町民マラソンだとゴールすることを目標に自分のペースで走ることができると、幅広い年代の町民が気軽に参加できます。伊仙町の豊かな自然の中を家族同士、友達同士、近所の人同士などで走ること、コミュニケーションや地域の人との交流が生まれます。さらに、健康づくりにもつながり、「長寿の伊仙町」をめざせるのではないのでしょうか。走者側ではなく、ボランティアで運営側として町民マラソンに参加することももちろん可能で、走者と走者、運営者と運営者、走者と運営者など、さまざまなかたちで同じ伊仙町に住む人たちと出会うことができます。

時代の流れに伴い、少子高齢化が進んでいます。島を離れる若者も多く、私も高校を卒業したら進学のために島立ちをします。周りの友達もほとんどの人が島を離れます。島を離れたら島に帰ってくるつもりはないと考えている人もいます。よりレベルの高い場所で勉強やスポーツに励みたいという思いから、早い段階で本土に上がる子どももいます。だからこそ、島を出るまでの間だけでも地域の人との強いつながりを作ること大切だと思います。もしかすると、もう少し島に残ろうと考える人も出てくるかもしれません。

このように、町民全員で参加できるイベントを開催することにはメリットがたくさんあります。町も町民も活気のある伊仙町。それが、私が未来の伊仙町に期待することです。



昭和 37 年 役場庁舎新築起工式



昭和 37 年 旧庁舎会議室

1964
昭和 39 年

1963
昭和 38 年

1962
昭和 37 年

3月	1月	11月	9月	8月	7月	6月	5月	3月	11月	10月	9月	8月	4月	1月				
奄美群島復興特別措置法を改正、奄美群島振興特別措置法、総事業費150億円、5力年計画	大島運輸の波之上丸（2250t）亀徳初入港	奄美群島日本復帰10周年記念祭開幕	「島育ち」のヒットで離島ブームが起き、観光客増える	伊仙町役場新庁舎落成	徳之島に県営開拓パイロット事業開始、昭和41年度完工	アマミノクロウサギ、国の特別天然記念物に指定	NHK名瀬放送局テレビ放送開始	坂井友直「徳之島小史」再刊	徳之島、寒害でイモ全滅する	徳之島空港落成式	伊仙町内小型含蜜製糖工場28か所確認	国立科学博物館のクロウサギ調査団、生息数減少を指摘。徳之島は絶滅寸前	伊仙町農業協同組合設立	徳之島民俗研究学会編『徳之島民俗誌』発行	奨励作物のパイン、貿易自由化で打撃を受け、徳之島、瀬戸内工場操業中止	大島支庁庁舎が完成	鹿児島銀行徳之島支店伊仙出張所業務開始	伊仙村町制施行 これに合わせ面縄の関昌弘氏による町章も作成



昭和 38 年 伊仙町庁舎建設



昭和 38 年 伊仙町庁舎落成式

1966
昭和 41 年

1965
昭和 40 年

4月	3月	12月	11月	10月	5月	4月		10月	8月	7月	4月	
天城町の私立徳之島商工高等学校開校	奄美振興事業費、総額41億3千万円（国費15億5千万円） 1000kwの火力発電所が平土野にできる。大島電力、24時間送電を開始	NHKテレビ塔完成、試験放送始まる	キビ価格、18度で5850円に	木之香公民館落成	中学生の本土修学旅行始まる	伊仙町母子健康センター開設 ルリカケス県島に	奄美大島青年会議所認証式	亀津火力発電所に750kwの発電機がそなえられる	徳之島でテレビが見られるようになる 東京オリンピック開催	台風14号襲来、出戻り折り返し、長時間の記録的台風で被害総額郡内で12億円 伊仙町長に岩井正三氏当選	奄美空港と鹿児島、徳之島、喜界を結ぶ航空路線開設	奄美振興5ヶ年計画事業開始、総事業費161億余円 鹿児島県立徳之島高校伊仙校舎、同伊仙分校となる 犬田布騒動百年祭記念碑建設、建設委員岩井正三ほか45名の発起による



昭和 44 年 戦艦大和慰霊祭



昭和 40 年代 学校給食
(幸山忠蔵氏 提供)



昭和 44 年 高松宮来島



昭和 43 年 戦艦大和慰霊塔除幕式

1969
昭和 44 年

1968
昭和 43 年

1967
昭和 42 年

1 月	12 月	11 月	8 月	5 月	4 月	3 月	10 月	4 月	2 月	8 月	5 月
奄美の芭蕉布紡織習俗を民俗資料に指定	奄美群島振興特別措置法を改正し5年延長、総事業費250億円、国費103億円	伊仙町で集団赤痢	アカヒゲを国の天然記念物に指定	沖縄返還奄美郡民会議、在沖奄美人への差別撤廃要求へ	伊仙町長に岩井正三氏再選	伊仙・犬田布岬の戦艦大和慰霊塔除幕式、第一回慰霊祭を開	伊仙・西部ダム完成	徳之島から早掘りバレイシヨ本土へ初出荷	町立へき地保育所を面縄、検福、伊仙、犬田布、馬根に設置	伊仙・犬田布岬の戦艦大和慰霊塔除幕式、第一回慰霊祭を開	伊仙・西部ダム完成
伊仙町に徳之島老人ホーム開設	奄美振興費総額17億6千万円、うち基金に5千万円	徳之島高校伊仙分校、徳之島農業高等学校に独立昇格	伊仙農業気象観測所観測開始	目手久、阿三、木之香に町立へき地保育所設置	県農業試験場大島支場徳之島試験地は県農業試験場徳之島糖業支場として昇格	伊仙・西部ダム完成	徳之島から早掘りバレイシヨ本土へ初出荷	町立へき地保育所を面縄、検福、伊仙、犬田布、馬根に設置	伊仙・犬田布岬の戦艦大和慰霊塔除幕式、第一回慰霊祭を開	伊仙・西部ダム完成	伊仙・西部ダム完成
伊仙工場650t、平土野工場800t、伊仙工場550t、目手久工場400t	徳之島の大洋殖産と大島糖業が合併、南西糖業に	郡内初の伊仙町学校給食センターが落成、6月1日より町内4,300名の小・中学生向け完全給食実施	徳之島の大洋殖産と大島糖業が合併、南西糖業に	伊仙工場650t、平土野工場800t、伊仙工場550t、目手久工場400t	徳之島の大洋殖産と大島糖業が合併、南西糖業に	伊仙工場650t、平土野工場800t、伊仙工場550t、目手久工場400t	徳之島の大洋殖産と大島糖業が合併、南西糖業に	伊仙工場650t、平土野工場800t、伊仙工場550t、目手久工場400t	徳之島の大洋殖産と大島糖業が合併、南西糖業に	伊仙工場650t、平土野工場800t、伊仙工場550t、目手久工場400t	徳之島の大洋殖産と大島糖業が合併、南西糖業に



昭和 45 年 徳州婦人会



昭和 46 年 伊仙中央公民館落成式



昭和 46 年 イッサンサン
(幸山忠蔵氏 提供)

1971
昭和 46 年

1970
昭和 45 年

5 月	4 月	3 月	10 月	9 月	6 月	5 月	4 月	3 月	2 月	9 月	8 月	4 月
東亜のパイロット 55 人全員が辞職し離島全便欠航 日本国内航空と東亜航空が合併	町立へき地保育所、西阿三、西犬田布、崎原、小島に設置	中央公民館落成	国勢調査により人口 12,142 人、世帯数 3,354 戸	徳州婦人連絡協議会が伊仙小学校体育館にて開催される 喜念集落において第 40 回喜念畜産共進会開かれる	鹿児島県、奄美群島の国立公園指定を申請	離島ブームで、県観光センターへ離島の問い合わせ増加 元田隆丸議長、大島郡議長会にて満場一致で郡議長会長へ	町立へき地保育所を古里、西目手久、東伊仙に設置	阿権で結氷・降霜現象確認 伊仙町立診療所の増築工事完成	奄美振興事業費、総額 40 億 6 千万円、国費 20 億 8 千万円	犬田布騒動記念館建立 馬根小学校の校旗、校歌制定祝賀会開かれる	週刊朝日「日本美発掘」にて阿三カメヤキのかめが「徳之島の水がめ」として全国発信される	徳之島町亀津海岸埋め立て工事開始 高松宮夫妻、戦艦大和慰霊祭出席のため徳之島訪問、第二回戦艦大和戦士慰霊祭 町立へき地保育所を喜念、西伊仙、河内に設置 家畜流通総合施設（家畜セリ市場）を阿三に設置



昭和 47 年 皇太子ご夫妻（現上皇・上皇后）



昭和 47 年 皇太子ご夫妻
（現上皇・上皇后）徳之島訪問



昭和 47 年 徳之島空港（幸山忠蔵氏 提供）

1973
昭和 48 年

1972
昭和 47 年

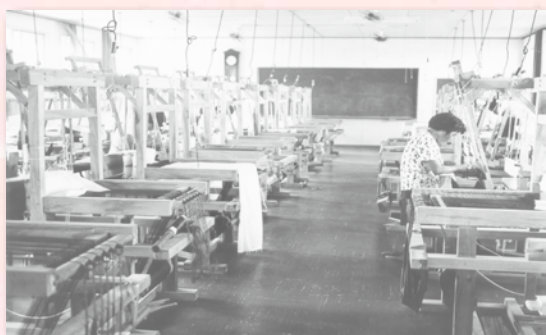
4 月	3 月	2 月	12 月	11 月	9 月	8 月	7 月	5 月	4 月	3 月	12 月		7 月
徳之島三町農業共済組合が合併、阿三に本所設置 東大田布にあまみ衣料株式会社誘致 鹿浦小学校に町立幼稚園併設	大島電力を九州電力が吸収、「電力の本土復帰」 面縄に県過疎対策事業コミュニティセンター設置	喜念崎燈台（無人）竣工	衆議院議員選挙、保岡興治氏当選	環境庁が奄美のルリカケス、アカヒゲ、オオトラツグミ、オーストンオオアカゲラを特殊鳥類に指定	皇太子ご夫妻（現上皇・上皇后）が徳之島訪問、来町	伊仙町長に樺山信忠氏当選	伊仙中学校、徳之島全島野球大会で優勝、県大会に出場す 児島・奄美・那覇間に就航 照国郵船の 5,000t 型フェリー「クイーンコラル」、鹿	沖縄が日本に復帰、名瀬市で祝賀式典や漁船のパレード	伊仙、面縄、犬田布の各小学校敷地内に町立幼稚園を設置	伊仙町東部ダム完工 ケナガネズミとトゲネズミを国の天然記念物に指定	面縄小学校に日本復帰協議会議長、泉芳朗顕彰碑建立	亀津に電信電話局できる	各地で干ばつ深刻化、徳之島で鹿屋の海上自衛隊が人工降雨 亀津火力発電所に 1500 キロワットの発電機をそなえつけ



昭和 40 年代 鹿浦集落の様子
(幸山忠蔵氏 提供)



昭和 40 年代 町民体育祭
(幸山忠蔵氏 提供)



昭和 48 年 紬織工養成所を阿三に設置



昭和 48 年 あまみ衣料株式会社

1974
昭和 49 年

4 月	3 月	2 月	1 月	10 月	9 月	7 月	6 月	4 月
製糖終了後、農業委員会による出稼ぎ予定者 180 人に向けての安全就労大会開かれる 群島一斉にミカンコミバエ防除事業	伊仙認可保育所、西伊仙こどもと老人の家、喜念生活館、阿三ヘリポート、鹿浦幼稚園、馬根小学校体育館、阿権小学校体育館、喜念小学校体育館が完成し、他に糸木名、喜念地区で水田転換特別事業が進む	奄美群島振興特別措置法を振興開発特別措置法に改称し、5 年延長 伊仙町検福に大豊衣料株式会社誘致 奄美群島を国定公園に指定、伊仙町では喜念から東面縄、鹿浦から阿権、犬田布岬を経て小島までの海岸線一帯が指定される	面縄中学校、祖国復帰 20 周年記念美術展学校賞を受ける 犬田布中学校、全九州学校図書館コンクールにおいて優秀校として文部大臣賞を受ける	東部地区水不足解消のため、上面縄坂水でのボーリング調査を実施し 1 日 800 t の地下水脈を発見、揚水開始	奄美国定公園の指定を控え、伊仙町自然保護条例が制定される 伊仙町糖業振興会と農協主催によるサトウキビ価格引き上げ総決起集会が 1,000 以上の生産者を集めて開催される	サトウキビ 100 t 以上生産の 65 農家へ表彰式 金丸県知事が来島し、徳之島懇談会において奄美振興特別措置法、サトウキビ価格、港湾、空港、ヘリポートなどの要請を行う	徳之島新空港開港	河地福祉社会館落成 紬織工養成所を阿三に設置



昭和 50 年頃 面縄橋決壊

私が未来の伊仙町へ期待することは、人口増加です。伊仙町は、人口が一番多い時と比べると約1万人も少なくなっています。人口を増やすために、若い子育てをしている人達が住みやすい町を作ったらいいと思います。

まず、若い人達の働く場所を増やしたり、住宅を増やしたらいいと思います。そうすれば都会から帰って来て、伊仙に住もうと思う人や、田舎に住みたい若い人がふえると思ったからです。

次に、子育てをしやすい町を作ったらいいと思います。もう少し遊ぶところを増やしたり、雨の日に遊ぶ室内パークなどがあれば、遊びにくる人がふえ人口増加につながると思います。

私も自分にできることを見つけ、町のために力になりたいと思います。



1975
昭和 50 年

12月	10月	7月	6月	4月	3月		11月	7月	6月
第1回婦人大運動会が伊仙小学校校庭において開催され、300人が参加、800人が応援に駆け付ける	伊仙町に集中豪雨、被害甚大、耕作地流失、道路欠損甚大。降雨量345ミリ、行方不明3名、住居全壊2戸、半壊2戸、床上浸水、道路欠損等被害総額12億3751万8000円に及ぶ 国勢調査により人口11,029人、世帯数3,253戸 昭和50年度優良「こども銀行」に奄美群島唯一、面縄小こども組合が大蔵大臣賞に輝く	2日間で348mm、降り始めから560mmの記録的豪雨により、家屋全壊、農地流出、冠水などで被害額7億800万円に上る大被害を被る 南日本文化研究所学術調査団（三木靖所長）、伊仙町総合学術調査	東阿三細織工養成所の横に歯科診療所が開設され歯科医師不在が解消される	町誌編さん事業着手、伊仙町広報映画制作始める 阿権大東子供会が県教育委員会、下岸子供会が大島教育事務局長よりボランティア活動や道路作業、花作り、読書会などの成果で表彰される	東伊仙、馬根、阿三、崎原において肉用牛生産団地事業が完了 西公民館落成式が挙行される	亀津に県の徳之島合同庁舎ができる	徳之島農協伊仙事業所新築落成	面縄中学校卓球部郡大会で優勝し、県大会に出場	沖永良部でサトウキビ黒穂病発生、以後徳之島、与論でも確認

私は、伊仙町のリサイクルについて思うことがあります。現ざい伊仙町のリサイクルは、おもにペットボトル、カンの分別がだんだんいきとどいてきているところです。ペットボトルも、ふた・ラベル・ペットボトルと分けて、ふたとラベルは、もえるゴミですが本当はプラスチックゴミに分別できます。私は、この間鹿児島に行ったときに、スーパーマーケットにペットボトル、カン、トレーの回しゅうボックスを見つけました。徳之島のしげんゴミは、きいろいふくろにいらていますが、ペットボトル、カン、トレーに分けて出さないといけません。ペットボトルとカンはよくたまりますが、トレーはなかなかたまりません。伊仙町のスーパーにもトレーの回しゅうボックスができたなら、もっとよりよいリサイクルが実現できるんじゃないかと思いました。



昭和 51 年 観光公園犬田布岬が完成

1977
昭和 52 年1976
昭和 51 年

7 月	6 月	5 月	3 月	2 月	1 月	12 月	11 月	9 月	8 月	5 月	4 月	2 月	1 月
ハブ撲滅対策協議会結成により、3 か月で235匹の買い上げなどハブ撲滅成果あがる	面縄中女子卓球チームが郡大会で連続優勝	優秀な登録牛として大隅町から28頭の町有牛導入	面縄生活会館落成	核燃料再処理工場建設反対徳之島町民会議結成	徳之島農業高校において「農業祭」が開催され、各種農業団体が参加	伊仙町議会、使用済核燃料再処理工場建設への反対決議	伊仙町議会、名誉町民第1号に泉重千代翁（111歳）を全会一致で可決	伊仙町の泉重千代（111歳）、長寿日本一に	ハブ対策条例施行	天城町・秋利神に核燃料再処理工場建設問題が浮上	伊仙町長選で樺山信忠氏再選	公共用観光施設整備事業として観光公園犬田布岬が完成	伊仙町長選で樺山信忠氏再選
													徳之島農業高校体育館にて成人式を挙行し、該当者400人中224人の成人が参加
													地域集団電話から全国自動ダイヤル即時通話に切り替わり記念式典挙行
													中山に肉用牛肥育団地ができる
													崎原青少年会館落成し、盛大に祝賀会が開かれる



昭和 53 年 さとうきびの碑
(幸山忠蔵氏 提供)

阿権小学校 6 年
元山 智喜さん

人々の温かさがあふれる町へ

「100年後も人々の温かさがあふれる町」
 ぼくが、未来の伊仙町に期待したいことだ。
 四年前に鹿児島市から転校してきたぼくは、
 伊仙町の人々の温かさに包まれて過ごすこと
 ができている。いつも笑顔のあいさつが返っ
 てきて、やさしく声をかけてくれる。困ってい
 たら、近所のおじちゃん、おばちゃんがすぐ助
 けてくれる。ぼくは、伊仙町に來
 てから一度も人と人との壁を
 感じたことがない。他の場所
 では、失われつつある人々の
 温かさが、この伊仙町には、あ
 ふれている。百年後も人々の温
 かさがあふれる伊仙町で
 あってほしいと思うし、
 そうなることができる
 ように、ぼくもいろん
 な人々と手を取り合
 い、その温かさをつ
 ないでいきたい。



1979
昭和 54 年

1978
昭和 53 年

6 月	5 月	4 月	12 月	9 月	8 月	7 月	6 月		11 月	9 月
昭和52年度の町民所得が89億円に上り、前年比130%の伸び特に第1次産業が26億円で150%の伸びを見せる 114歳の泉重千代翁「長寿世界」とギネスブックに登録「長寿世界一誕生祝賀会」が伊仙小学校校体育館にて盛大に行われる	大島、喜界、徳之島3島でミカンコミバエ根絶、生果持ち出し解禁	犬田布認可保育所、阿権へき地福祉館、目手久青少年会館落成	『伊仙町誌』刊行 奄美群島日本復帰25周年記念弁論大会において中学生による弁論大会と英語暗唱大会が開催される	長寿の町として知られ始め、住民10,619人中、90歳以上が43人 慶長15年大和村に導入され、長年奄美群島を支えたサトウキビの恩恵に感謝し、また鹿児島県農業試験場徳之島支場50周年を機にサトウキビの碑を建立	イモなどを中心とした農業振興が進む	52、53年期のさとうきび大豊作、伊仙町生産量97,405tで、史上最高を示す 前年4月から発足した「自立経営志向農家群」の育成事業の進捗に伴い、輸送園芸作物やバレイシヨ、実エンドウ、サトイモなどを中心とした農業振興が進む	徳之島高校創立30周年記念式典 中央公民館による「移動図書館」伊仙地区各公民館で開始	馬根生活館落成	産業振興を指して「産業祭」を二日間にわたって開催 表彰式や講演会を始め、のど自慢、民謡大会、相撲大会、パレードが行われ延べ3,000人の人出でにぎわう	「沖永良部台風」と命名された台風9号の直撃を受け壊滅的被害、被害総額196億円 沖永良部・与論・徳之島に災害救助法適用

わたしは、伊仙町が人間も動物も「安心して暮らせる町」であり続けてほしいと思います。伊仙町には、豊かな自然と元気いっぱいの子供たち、健康で長生きをする高齢者の方々がいます。その素晴らしい伊仙町の財産を未来にも残していったほしいと思います。

そのためには、伊仙町が平和でなければいけません。戦争や犯罪を行わないことだけではなく、地球温暖化などの環境問題にも目を向けて、再生エネルギーの活用やカーボンニュートラルを目指した、環境に優しい暮らしにも取り組んでいくことが必要だと思います。

そうすることで、わたしは伊仙町が人間にも動物にも「安心して暮らせる町」になっていくと思います。



昭和 55 年 徳之島空港ジェット機就航



昭和 55 年 上木家に五つ子が誕生

1980
昭和 55 年

12月	11月	10月	9月	7月	5月	3月	11月	10月	7月
南西糖業伊仙工場の処理能力が650tから1,000tへ拡張され、喜念地区を除く伊仙町全体のサトウキビが処理できるようになる	大島地区新人総合体育大会において徳之島農業高校女子卓球部が三冠王に	近畿鹿児島県人会連合会と関西徳洲会30周年記念に合わせ、泉重千代翁（115歳）が大阪5泊6日の長旅へ	伊仙町長選挙で芳倉英治氏初当選	徳之島空港ジェット機就航、徳之島初のジェット機就航 県内離島初のジェット機就航を受け、犬田布岬公園にてゴダイゴ野外コンサート開催、4,500人が熱狂	奄美群島初の海水プールを備えた瀬田海浜公園開園 奄美群島全域でミカンコミバエの根絶を宣言	阿三生活館、馬根幼稚園、歴史民俗資料館、小島青少年会館、八重竿農業研修センター完成	伊仙町で上木家に五つ子が誕生	面縄中学校器械体操部が県秋季高・中学校体操競技選手権大会にて見事優勝	徳之島町母間で巨大アラ釣り作戦、不発に終わる 第5回奄美群島農業祭において、喜念集落が優秀農業集落として表彰 第25回奄美地区総合社会教育大会が伊仙小学校及び町内10か所の分科会会場で行われ、家庭教育、公民館活動、青年団、婦人会、文化財など幅広く議論 焼酎の全郡的銘柄統一へ協同組合結成を図るも流れる